

産業安全運動 100 年記念事業
実施報告書



2011 年 12 月

産業安全運動 100 年記念事業実行委員会

目次

はじめに	1
I スローガン・ロゴ・実施期間	1
1. スローガン	1
2. ロゴ	1
3. 実施期間	1
II 企業・団体の参加を仰ぐ事業	2
1. 安全宣言・安全の誓い	2
2. 安全100年黙祷	2
3. 記念植樹	2
4. 各企業・団体の自主的な取組み	2
III イベント事業	3
1. 産業安全運動100年記念「第70回全国産業安全衛生大会」 の開催	3
2. 産業安全運動100年記念展示	5
IV 制作物	6
1. 中災防の月刊誌「安全と健康」「安全衛生のひろば」及び 季刊誌「オアシス」への連載・特集	6
2. 記念図書の発刊	7
3. 産業安全運動100年の記録映像の制作	7
V 広報・PR	8
1. 産業安全運動100年のPR	8
2. 産業安全運動100年記念サイト	8
3. メディアを利用した広報	9
4. 講演等によるPR	10
5. 「あんぜん チョットいい話」の募集	10
6. これからの安全衛生活動のあり方を考える小論文募集	11
7. 安全衛生クイズの実施	12
8. ロゴシールの活用	12

はじめに

1900年代初頭のアメリカの産業界で提唱されていた「セーフティ・ファースト」の運動に感銘を受けた古河鋳業足尾鋳業所所長の小田川全之（おだがわまさゆき）氏は、1912年（大正元年）、「安全専一（あんぜんせんいち）」と名付けた標示板を坑内外に掲示し、従業員の安全意識の高揚を図るなど同鋳業所をあげて安全活動を始めました。これが、わが国産業界における自主的な安全運動の創始と考えられます。



2011年（平成23年）は、安全運動の創始の年から数えてちょうど100年目に当たります。これを記念し、経営トップから現場で働く人すべてが先人の安全にかけた思いと活動を振り返るとともに、これからの安全衛生活動のあり方を熟考することにより、安全衛生意識の一層の向上と安全衛生活動のさらなる進展を目指すことを目的として、「産業安全運動100年記念事業」を実施しましたので、ここに報告いたします。

◆「産業安全運動100年記念事業実行委員会」について

本記念事業の企画・運営に当たり、業界団体、事業主団体などの38団体により実行委員会を構成し、事務局は中央労働災害防止協会内に設置しました。

I スローガン・ロゴ・実施期間

1. スローガン

「安全専一」から100年 未来へつなごう安全の心

2. ロゴ



3. 実施期間

2010年（平成22年）10月 ～ 2011年（平成23年）12月

II 企業・団体の参加を仰ぐ事業

1. 安全宣言・安全の誓い

企業・事業場等のトップが、自らの言葉で、未来に向けて安全衛生活動を進めていく決意や、働く方々の安全と健康を守り抜くという決意を「安全宣言」や「安全の誓い」として表明されたものです。55企業・事業場、22団体が実施しました。「産業安全運動100年記念サイト」へ書き込まれた「安全宣言・安全の誓い」については、



パネル化し、東京国際フォーラムで開催した「産業安全運動100年記念展示」において、展示しました。

2. 安全100年黙祷

この100年間に労働災害で犠牲になられた方々に哀悼の意を表わすとともに、安全衛生活動にご尽力された先人に敬意を表し、これからも労働災害防止に全力を尽くすという思いを込めて実施されたものです。31企業・事業場、16団体が実施しました。

3. 記念植樹



安全衛生活動が、植樹された木のように、深く根付き、枝が広がるように、各職場で安全衛生活動が活発に展開され、労働災害のない安全で健康な職場が築かれることの願いを込めて実施されたものです。13企業・事業場、6団体が実施しました。



4. 各企業・団体の自主的な取組み

延べ80企業・事業場、85団体が「各企業・団体の自主的な取組み」を実施しました。

(1) 100年記念として開催した大会、講演会、研修会等

2企業・事業場、39団体が実施しました。

(2) ロゴ等を活用したポスター、資料による啓発

31企業・事業場、20団体が実施しました。

(3) その他

47企業・事業場、26団体が実施しました。実施例として、社内安全活動の歴史年表の作成、自己研鑽用テキストの作成や特別講演の実施などがあります。

Ⅲ イベント事業

1. 産業安全運動100年記念「第70回全国産業安全衛生大会」の開催

2011年（平成23年）10月12日（水）から14日（金）まで、有楽町の東京国際フォーラムほかにて開催し、約8,300名の方にご参加いただきました。

(1) 総合集会記念シンポジウム（10月12日）

ア. テーマ

「安全文化」は構築できるか～企業の危機管理のあり方を考える～

イ. シンポジスト



柳田邦男氏（ノンフィクション作家）



畑村洋太郎氏（工学院大学教授）



芳賀繁氏（立教大学現代心理学部
心理学科教授）

ウ. コーディネーター



久谷與四郎氏（労働評論家
元読売新聞論説委員）

(2) 分科会記念講演・シンポジウム（10月13日～14日）

ア. 記念講演

講 師	テーマ	分科会	来場者数
月尾嘉男 (東京大学名誉教授)	100年先から現在を計画する	リスクアセスメント/ マネジメントシステム	1,450名
向殿政男 (明治大学理工学部教授)	労働安全衛生マネジメントシステムに生かすリスクベースアプローチの考え方	リスクアセスメント/ マネジメントシステム	550名
藤原健嗣 (旭化成㈱代表取締役社長)	安全は社会の礎	安全管理活動	750名
河田恵昭 (関西大学社会安全学部長)	自然災害と企業における危機管理	安全管理活動	1,200名
杉本旭 (明治大学理工学部教授)	機械安全の歴史と展望について	機械・設備等の安全	280名
佐々木常夫 (東レ経営研究所特別顧問)	ワークライフバランス実現のための仕事術	安全衛生教育	430名
増田明美 (スポーツジャーナリスト)	自分という人生の長距離ランナー	ゼロ災運動	560名
加賀美幸子 (アナウンサー (元NHK))	こころを動かす言葉	メンタルヘルス	1,000名



月尾嘉男氏



加賀美幸子氏

イ. シンポジウム

(ア) 安全衛生教育分科会（来場者数 500 名）

現場力強化のための職長の役割と今後の課題～未来に伝えること～

シンポジスト	出光興産(株)徳山製油所安全環境室	末武孝一
	三機工業(株)安全推進室長	泉和 男
	(株)東芝府中事業所総務安全保健担当参事	羽深勝也
司 会	中災防東京安全衛生教育センター所長	福島康志



(イ) 健康づくり分科会（来場者数 300 名）

高齢労働者の運動機能の低下などに配慮した災害リスクへの対応

シンポジスト	(財)労働科学研究所客員研究員	永田久雄
	(財)栃木県健康倶楽部常任理事	小室史恵
	JFEスチール(株)安全衛生部部长	高橋信雄
司 会	関西大学社会安全学部准教授	中村隆宏

2. 産業安全運動100年記念展示

11企業・事業場、4団体から資料のご提供をいただき、2011年（平成23年）10月12日（水）から14日（金）まで、有楽町の東京国際フォーラムロビーギャラリーにて開催し、約10,000名の方にご来場いただきました。来場いただいた方々には解説等を記載したリーフレットを配布しました。

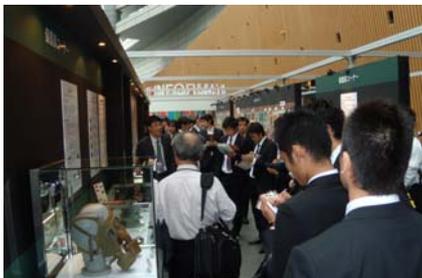
また、開催期間中に東日本大震災義援金の募金を行い、同時開催の産業安全運動100年記念「第70回全国産業安全衛生大会」及び緑十字展2011と合わせて316,739円を日本赤十字社に寄付しました。（受領証は別添参照）

(1) 主な展示物

- ア. 「安全専一」標示板の実物等、貴重な歴史的遺産
- イ. 産業安全運動100年の歴史年表
- ウ. 懐かしい安全衛生ポスター
- エ. 初期の安全衛生保護具
- オ. 産業安全運動100年記録映像の放映
- カ. 企業・事業場の「安全宣言・安全の誓い」パネル



キ. 産業安全運動100年記念事業実行委員会構成団体等の東日本大震災への支援活動
紹介



IV 制作物

1. 中災防の月刊誌「安全と健康」「安全衛生のひろば」及び季刊誌「オアシス」への連載・
特集

2011年（平成23年）に以下の連載・特集を企画しました。

(1) 「安全と健康」

ア. 特集「産業安全運動の変遷とこれからの展望」（平成23年1月号）

イ. 連載

(ア) 「グラフィック 安全・安心の最新技術」（平成23年1月～12月号）

(イ) 「担当トップに聞く 安全衛生への提言」（平成23年1月～12月号）

(2) 「安全衛生のひろば」

ア. 特集「その道のプロが語る安全」（平成23年1月号）

イ. 連載

(ア) 「こうして築いた安全衛生」（平成23年1月～12月号）

(イ) 「知っておきたい 安全衛生のそもそも」（平成23年1月～12月号）

(3)「オアシス」

ア. 連載

(7)「職場の健康 今昔物語」(平成23年春号～冬号)

春号：結核

夏号：工場体育

秋号：ITの変遷と健康障害

冬号：メンタルヘルス



2. 記念図書が発刊

(1) 目で見る職業病と労働環境

2011年(平成23年)3月29日に職業病や労働環境の変遷を貴重な写真を多用して振り返る「目で見る職業病と労働環境」を500部発刊しました。

(2) 安全衛生運動史～安全専一から100年～

2011年(平成23年)10月6日にわが国の安全衛生運動の変遷を物語調で記した「安全衛生運動史～安全専一から100年～」を1,500部発刊しました。

3. 産業安全運動100年の記録映像の制作

18企業・事業場、7団体から撮影や資料提供のご協力をいただき、2011年(平成23年)10月にわが国の産業安全運動100年の変遷を映像化した「『安全専一』から100年 未来へつなごう安全の心」DVDを制作しました。

この映像は、産業安全運動100年記念「第70回全国産業安全衛生大会」総合集会及び産業安全運動100年記念展示にて上映し、大変な好評を得ました。



記念展示における記録映像上映の様子

V 広報・PR

1. 産業安全運動100年のPR

リーフレット第1版、総合プログラム、リーフレット第2版、しおり第1版、シール、しおり第2版、リーフレット第3版を作成、配布し、PRに努めました。また、本記念事業のPRを行った企業等は以下のとおりです。

- (1) 会員団体・企業へのリーフレット等の配布 1, 526企業・事業場・団体
- (2) 機関誌に掲載 6企業・事業場、70団体
- (3) ホームページに掲載 9企業・事業場、31団体
- (4) 封筒にPRを印刷 7団体
- (5) 100年記念サイトのリンク 1企業・事業場、16団体



2. 産業安全運動100年記念サイト

2010年（平成22年）10月6日から2011年（平成23年）12月31日まで開設しました。閲覧数は、平成23年12月31日現在281,418件、わが社の記念活動の書き込みは84件（58企業・事業場、26団体）でした。

産業安全運動100年の歴史を年表や写真で辿り、懐かしい安全衛生ポスター、安全衛生クイズ de GO!の問題・解答、あんぜんチョットいい話及び産業安全運動100年記念小論文の入賞・入選作品等を掲載しました。

また、記念図書の発刊、中災防月刊誌・安全と健康、安全衛生のひろばへの連載・特集等の情報を随時、更新しました。



産業安全運動100年記念サイト

3. メディアを利用した広報

(1) メディアへの情報提供

厚生労働記者会及び労政記者クラブ会員の新聞社、全国の新聞社に「産業安全運動100年記念事業だより」を9回配信しました。

(2) メディアでの記事掲載等

ア. 放送及び記事掲載

(7) 日刊工業新聞

- a. 進化する「安全専一」第1部①～⑥(H22. 6. 14, 6. 21, 6. 28, 7. 5, 7. 19, 7. 26)、
第2部①～③(H23. 2. 21, 2. 28, 3. 7)
- b. 記念事業スタート等(H22. 9. 30, 10. 6, 10. 7)
- c. 産業安全運動100年(H23. 4. 13)
- d. 記念植樹(H23. 7. 1)

(4) 電気新聞(H22. 10. 7)

(7) 安全スタッフ(労働新聞社)(H22. 11. 1)

(エ) NHKラジオ第1放送 ラジオあさいちばん「時の話題」(H23. 1. 19)

(オ) 日本農業新聞(H23. 1. 21)

(カ) ホームページ 日刊新民報(所沢市の地方新聞)(H23. 2. 5)

(キ) 中日新聞、東京新聞社説(H23. 2. 22)

(ク) 産報出版社(H23. 4. 28, 10. 14, 17)

(ケ) 日刊産業新聞(H23. 7. 1)

(コ) 鉄鋼新聞(H23. 7. 1, 11. 4)

(ク) 日刊建設工業新聞(H23. 7. 5)

(シ) 日本経済新聞春秋(1面)(H23. 9. 24)

(ス) 中日新聞世談(H23. 10. 16)



イ. 広告掲載

(7) 公募ガイド1～6月号(記事広告)、5月号(広告)、12月号(あんぜんチョットいい話金賞作品)

(4) 日本経済新聞社(H23. 2. 13)

(7) 東洋経済3月5日・12日・19日号(H23. 2. 28, 3. 7, 3. 14)

(エ) 登竜門(ホームページ)(H23. 3. 7～)

(オ) 日経ビジネス3月21日号(H23. 3. 18)

(カ)産経新聞（東海・北陸版）(H23.3.23)

(キ)「おはよう奥さん」5月号（学研）

(3) メディア関係今後の予定

(ア)朝日新聞 夕刊「ニッポン人・脈・記」（平成24年3月掲載予定）

(イ)日刊工業新聞(進化する「安全専一」第3部（掲載予定）

4. 講演等によるPR

安全衛生大会等において講演6回、来賓挨拶1回、会議等での説明2回、記念植樹へ出席1回実施しました。

5. 「あんぜん チョットいい話」の募集

働く人の安全や健康にまつわることで、体験・エピソードをもとに、気づいたり、考えたり、実行したことなどの作文を募集しました。国内外からご応募があった430件の作品の中から、選考委員会にて審査を行った結果、以下の作品が入賞・入選しました。入賞・入選者には、表彰状及び副賞（特別賞）を贈呈しました。金賞、銀賞受賞作品は、中災防発行の月刊誌「安全衛生のひろば」11月号及び産業安全運動100年記念サイトに掲載しました。

金賞（1編）

「花壇の花」 福井 敦男（京都府）

銀賞（3編）

「安全はお互いを思う心から」 石川 一雄（宮城県）

「感謝状-安全帯へのメッセージ」 志川 久（大阪府）

「1mの恐怖」 阿部 広海（静岡県）

佳作（3編）

「ご安全に」 江本 豊美（愛知県）

「黄色は止まれ」 阿部 松代（神奈川県）

「幸の肩たたき」 河野 ひさ江（千葉県）

特別賞（6編）

「1ねんせいになりました」 長坂 脩司（東京都、小学1年）

「あせらず急がずいつまでも」 阿部 莉子（静岡県、中学1年）

「仕事と命」 鈴木 詠斗（東京都、小学5年）

「交通安全リーダーの活動を通して」 松永 裕貴（静岡県、中学1年）

「小さな不注意」 横山 七映（大阪府、中学3年）

「安全のやくそく」 川上 颯己（東京都、小学3年）

6. これからの安全衛生活動のあり方を考える小論文募集

これからの安全衛生活動のあり方について小論文を募集しました。ご応募があった72件の作品の中から、選考委員会にて審査を行った結果、以下の作品が入賞・入選しました。入賞・入選者には、表彰状及び副賞を贈呈しました。

金賞受賞者は産業安全運動100年記念「第70回全国産業安全衛生大会」総合集会（平成23年10月12日）第1部表彰式において、表彰しました。

金賞、銀賞受賞作品は、中災防発行の月刊誌「安全と健康」11月号及び産業安全運動100年記念サイトに掲載しました。



金賞受賞者の表彰式の様子

金賞（1編）

「日本が世界一安全な職場を実現する日」 高岡 弘幸（旭硝子（株））

銀賞（2編）

「開かれた新しいステージ」 岡田 圭司（上野キャノンマテリアル（株））

「21世紀、アジアの安全衛生と日本の役割」 志川 久（大阪府）

佳作（3編）

「違反を許さない企業風土の醸成」 青木 高志（岡山県）

「多くの現場を見て感じたこと」 小田 康博（中国電力（株））

「産業医の歴史とこれから」 中尾 智（（株）アルバック）

7. 安全衛生クイズの実施

職場の安全衛生に関する択一式の100問のクイズを平成23年1月から10月まで毎月10問ずつ産業安全運動100年記念サイト及び中災防月刊誌に掲載し、翌月、正解と解説を掲載しました。応募状況は次のとおりです。毎月、抽選で30名に図書カード1,000円分を送付しました。

月	応募者数	全問正解者数	全問正解率
1月	384	122	31.8%
2月	338	215	63.6%
3月	222	85	38.3%
4月	250	190	76.0%
5月	188	64	34.0%
6月	201	54	26.9%
7月	183	97	53.0%
8月	178	35	19.7%
9月	167	60	35.9%
10月	146	14	9.6%
合計	2,257	936	41.5%

8. ロゴシールの活用

実行委員会構成団体等において、名刺及び封筒用にロゴシールを貼付し、PRに活用しました。

* 本記念事業の実施に当たり、故阿部十郎氏より遺贈いただいた寄付金を一部利用させていただきました。故人のご厚志に深く感謝申し上げますとともに、ここにご報告いたします。



第 10TH-0234443 号

このたびは、被災された方々のための義援金をお寄せいただきまして、誠にありがとうございました。

お預かりいたしましたお気持ちと義援金は被災された方々のために役立てていただくようにいたします。あたたかいご支援、誠にありがとうございました。

受 領 証

第70回全国産業安全衛生大会・緑十字展2011 産業安全運動100年記念展示 様

東京都 港区芝5-35-1

¥316,739.-

但 東日本大震災義援金として

上記のとおり受領致しました。

平成23年10月27日

日本赤十字社

社長 近衛 忠輝



〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

TEL. 03-3438-1311

(注) この受領証記載の金額は個人については、所得税法第78条第2項第1号に規定する寄附金、地方税法第37条の2第1項第1号及び第314条の7第1項第1号に規定する寄附金（ふるさと寄附金）、法人については、法人税法第37条第3項第1号の規定に基づく寄附金に該当します。